

ホンモロコ漁業について



滋賀県漁業協同組合連合会
代表理事会長 佐野高典

自己紹介

1948年7月4日生まれ

1966年 漁師の道へ

2007年～現在 堅田漁業協同組合長

2019年～現在 滋賀県漁連会長

現在は、刺網漁、えびたつべ漁に従事



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
刺網			ホンモロコ					ホンモロコ				
		ニゴロブナ										
えび たつべ						テナガエビ・スジエビ						

12月～1月は網の仕立て

ホンモロコの漁法

ちゅうびきあみ
沖曳網

底びき網漁業の一種。大きな網をロープで引っ張り、底にいる魚やエビを獲ります。

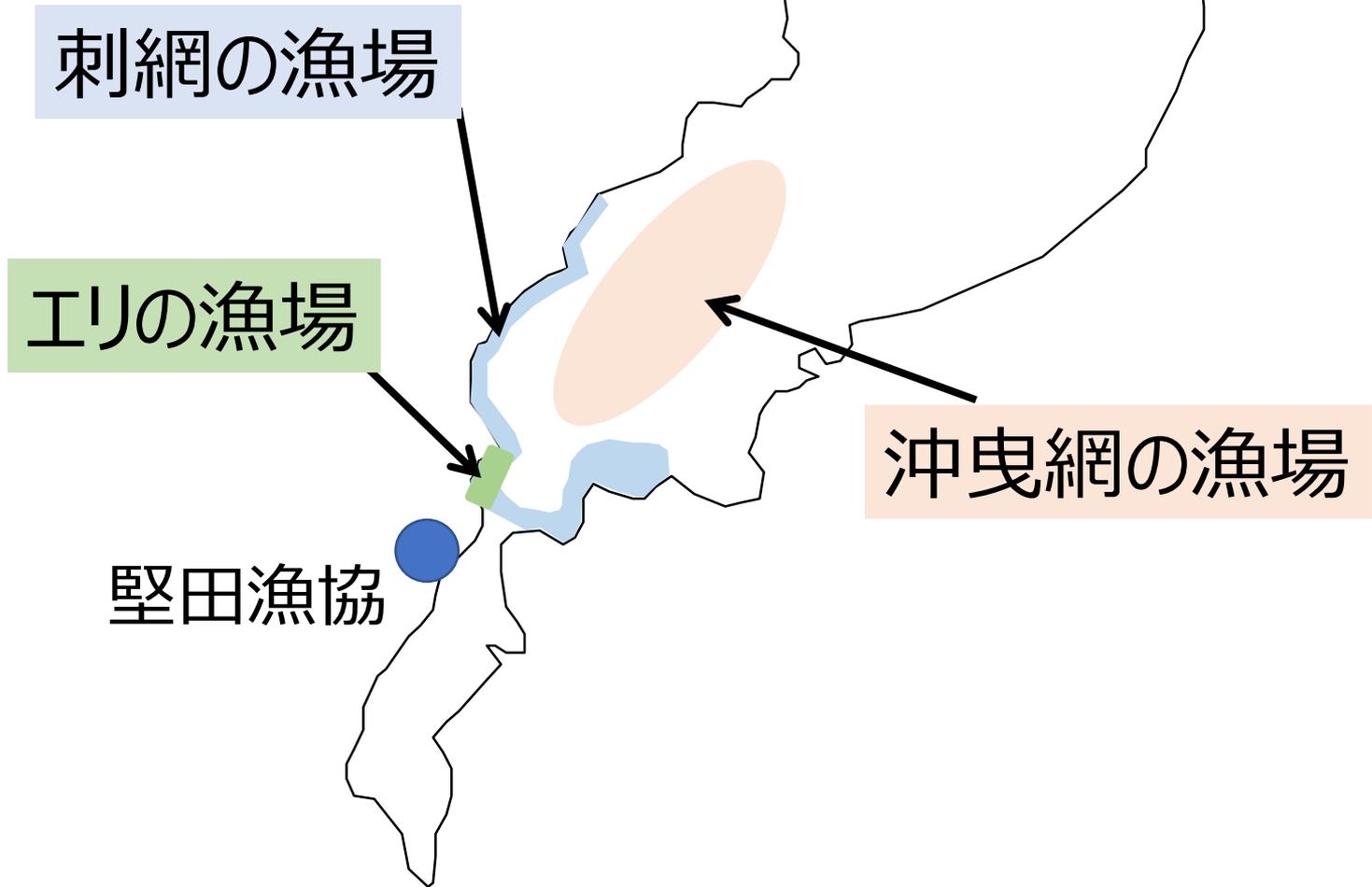
さしあみ
刺網
こいとあみ
(小糸網)

水中にカーテンのように網をはって、網に刺さった魚を獲ります。

エリ
(小型定置網)

湖岸から沖に向かって矢印型に網をはって、網に迷い込んだ魚を獲ります。

ホンモロコの漁場 (堅田の漁師)



ホンモロコ漁の1年

春モロコ

夏モロコ

秋モロコ

寒モロコ

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
沖曳												
刺網												
エリ												

ホンモロコは、南湖と北湖、湖岸と沖合を行き来する回遊性。

春、堅田では南湖に産卵に向かうホンモロコがよく獲れた。

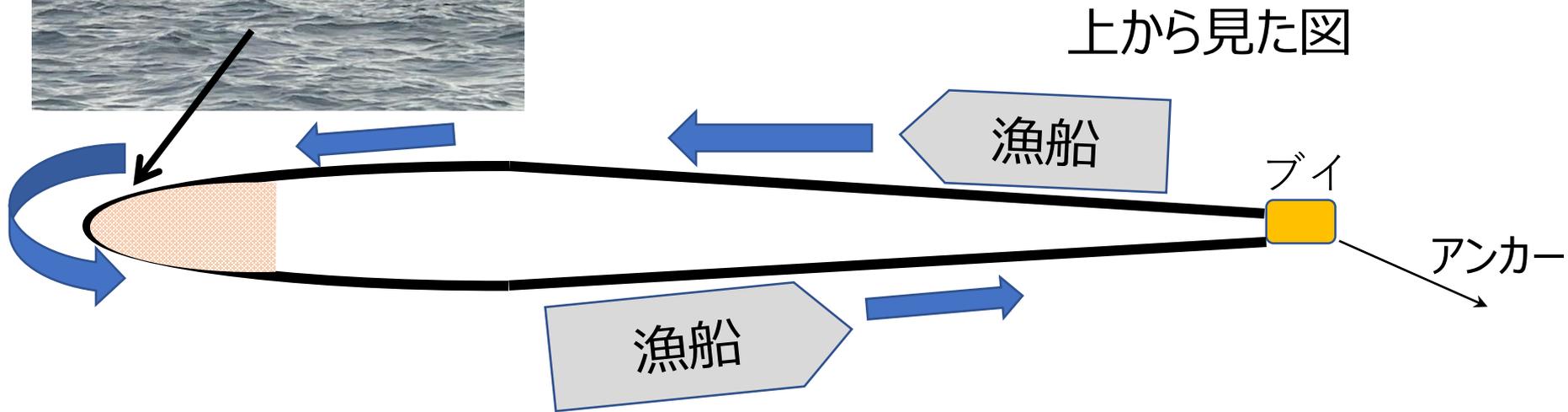
3月から4月中旬くらいまでが子持ちの春モロコの最盛期。

夏から秋には南湖から再び北湖へ。

真冬に北湖の深みへ落ちた「寒モロコ」、ここからが沖曳網の最盛期。

沖曳網

写真：網入れの様子

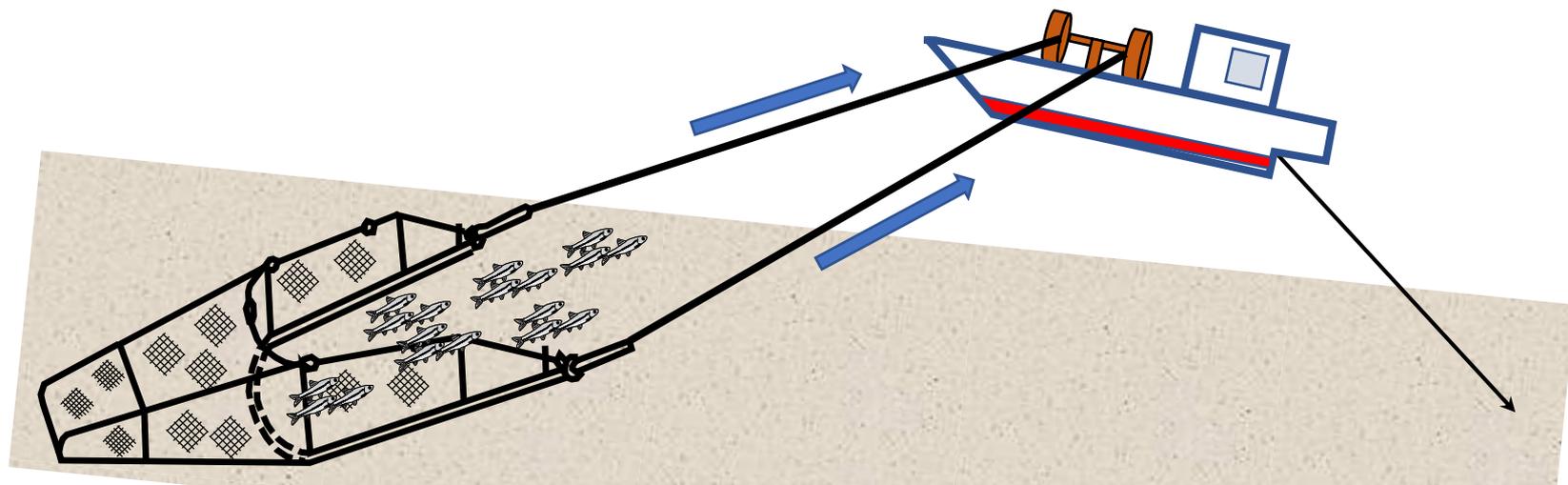


ブイを基点に船を走らせながらロープ、網、ロープの順に入れていく。

沖曳網



船につけたローラーを使って、網を曳く。



沖曳網

漁期：11月～4月



操業する水深：40～80m

モロコの移動にあわせて操業する水深は変化

操業時間：夜明け～10～11時頃

漁具：ロープの長さ 約800m

網の長さ 30～40m

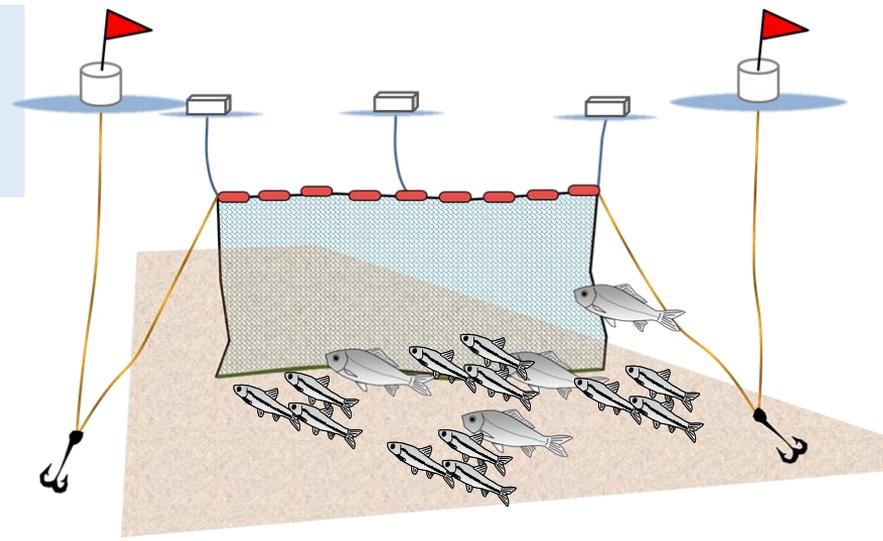
沖曳網



ホンモロコだけでなく、
ワカサギ、イサザ、スジエビ、ニゴロブナなど
いろいろな魚種を漁獲。
船上で魚種ごとに仕分け→出荷

刺網（小糸網）

漁期：3～4月、
8～11月



操業する水深：春は7m～10m
夏・秋は10m～15m

網設置位置：春は浅いところ
夏・秋は底付近

刺網（小糸網）

網の目合い：1.8cm～2.3cm

状況に応じて設置の仕方の違う網を使い分け



網の高さ：約4m

網の長さ：20m～30m

設置方法：吊りばえ



網の高さ：1.5m

網の長さ：20m～30m

設置方法：底ばえ

刺網（小糸網）

網設置時間

春　　： 夕方設置→翌朝取り上げ

夏・秋： 夜中2時頃→

夜明け頃取り上げ

※魚の鮮度を保つため、水温の高い時期は設置時間を短めに



エリ（小型定置網）

漁期：3月～4月

操業する水深：10m
（設置されている水深）

沖合から湖岸に寄って来る時期に
ホンモロコが漁獲される。



漁業者自らの資源管理



**産卵期 (5月・6月) の
ホンモロコは採捕禁止!**

 5月・6月の2か月間は琵琶湖のホンモロコの
産卵時期ですので、産卵させてあげましょう。

滋賀県漁連ではホンモロコの資源回復計画に取り組み、
漁業者自らが漁獲努力量を削減し、資源の増大を図ります。
漁期の規制は、漁獲重量の増大と単価の向上につながります。
また、主要な産卵時期を保護することにより、数年後の漁獲量を増やせます。

滋賀県資源管理協議会

おわりに・・・

ホンモロコが増えたことはうれしいこと。

琵琶湖には他にもモロコと名がつく魚がいるが、漁師がモロコと呼ぶのは「ホンモロコ」だけ。



私たちが獲った**本物の「モロコ」**の旬の味を多くの方に味わってほしい。